



医療法人社団協会

彩の国東大宮メディカルセンター

埼玉県医師会在宅医療塾

チームで支える在宅医療

～緩和照射の活かし方～

彩の国東大宮メディカルセンター 放射線治療科
酢谷真也



本日のゴール



緩和照射を活かせる場面を再認識し、
具体的な連携をイメージしていただく。

選択肢の1つとして緩和照射を挙げていただけるよう
お手伝いができれば幸いです。

目次

01

はじめに

日本の緩和照射の現状

02

緩和照射の基本

在宅医療で活用できる『ツール』のご紹介

03

緩和照射の近年のトレンド

共有したい3つのトピックス

04

連携の実際

当院での事例のご紹介

05

まとめ

患者さんのQOL向上につなげるために

目次

01

はじめに

日本の緩和照射の現状

02

緩和照射の基本

在宅医療で活用できる『ツール』のご紹介

03

緩和照射の近年のトレンド

共有したい3つのトピックス

04

連携の実際

当院での事例のご紹介

05

まとめ

患者さんのQOL向上につなげるために

がん患者さんのさまざまな病状

放射線治療科がお力になれるかもしれません。

骨転移

出血

圧迫
閉塞

脳転移

脊髄圧迫

わが国の緩和照射 | 少しもったいない現状

わが国の緩和照射は、まだ**活用の余地**がありそうです。

全放射線治療に占める緩和照射の割合

日本

30%

欧米諸国

40-50%

連携における「すれ違い」

学会の調査によると、**機会損失**があるかもしれません。

在宅医

放射線治療医



どんな症状に効くのか、適応がわかりにくい。

選択肢として認知されていないのでは？



負担が大きいのでは？



もう少し早ければ、負担少なく治療できたのでは。



どうやって相談すれば良いのか？



目次

01

はじめに

日本の緩和照射の現状

02

緩和照射の基本

在宅医療で活用できる『ツール』のご紹介

03

緩和照射の近年のトレンド

共有したい3つのトピックス

04

連携の実際

当院での事例のご紹介

05

まとめ

患者さんのQOL向上につなげるために

緩和照射 | 根治照射とは大きく異なります

短期間で、負担少なく、今のつらさを和らげる。

	緩和照射	根治照射
目的	症状の緩和 生活の質改善	がんの根絶
治療期間	短期間	長期間のことも多い
有害事象	軽微で限定的	比較的強い場合もある

骨転移に対して

70%程度で有効性が期待できる、最も代表的なツールです。

目的

骨転移に伴う疼痛軽減。
骨折予防。

効果・特徴

鎮痛効果により、ADLの維持やオピオイドの減量も期待できます。
「単回照射」という、1回の照射で治療が完了する選択肢があります。

腫瘍からの出血に対して

ご本人・ご家族の「出血への不安」を和らげます。

目的

各部位からの持続的な出血の軽減。
[喀血、血尿、性器出血、下血など]

効果・特徴

高い止血効果により、貧血の改善や介助の負担軽減に繋がります。

圧迫による症状に対して

「食べられない」「呼吸が苦しい」といった症状を改善します。

目的

食道狭窄による嚥下困難、上大静脈症候群、気道狭窄による呼吸困難感などの軽減。

効果・特徴

腫瘍を縮小させ、物理的な圧迫を解除・軽減します。

脳転移の神経症状に対して

つらい神経症状を和らげ、**穏やかな時間**を取り戻します。

目的

脳転移に伴う頭痛、嘔気、めまい、麻痺などの軽減。

効果・特徴

神経症状を緩和し、ステロイドの減量も期待できます。

脊髄圧迫 | 緊急対応

麻痺の進行は待ったなしです！



不可逆的な麻痺を回避するため、
早めにご連絡ください。

<注意が必要なサイン>

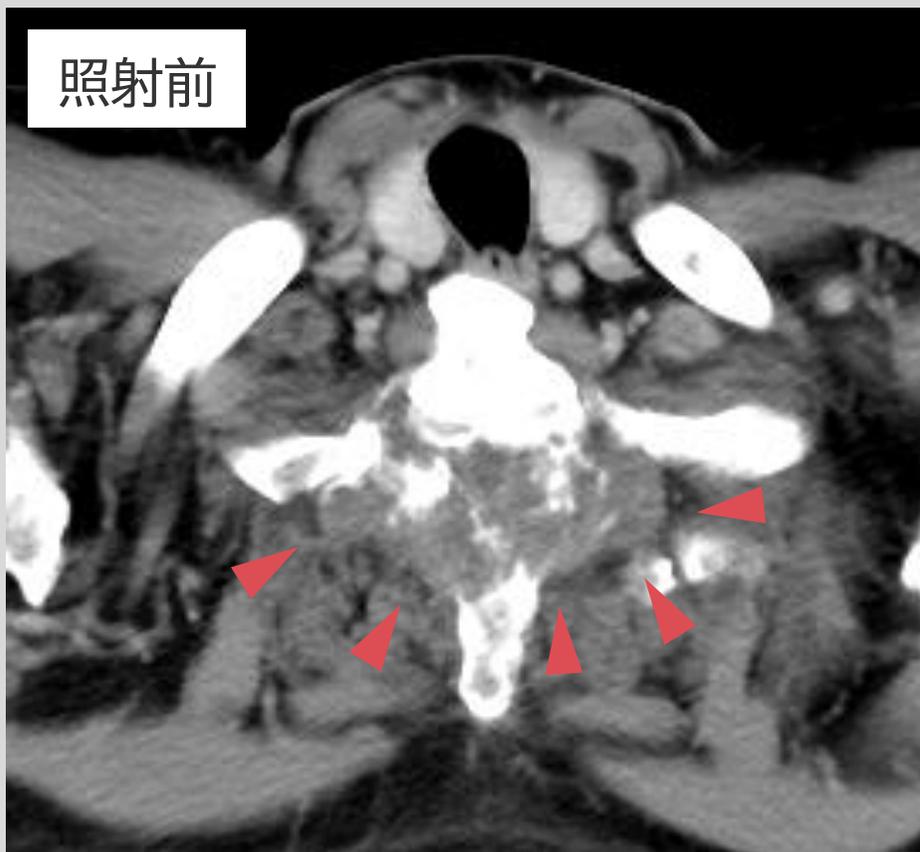
増悪する背中痛み

下肢のしびれ・脱力の出現

排尿・排便障害の出現

目で見る治療効果 | 骨転移への緩和照射

タイムリーな治療が機能回復につながりました。



目次

- 01 | はじめに
日本の緩和照射の現状
- 02 | 緩和照射の基本
在宅医療で活用できる『ツール』のご紹介
- 03 | 緩和照射の近年のトレンド
共有したい3つのトピックス
- 04 | 連携の実際
当院での事例のご紹介
- 05 | まとめ
患者さんのQOL向上につなげるために

近年のトレンド① | オリゴ転移

転移が少数なら、**予後改善**を目指した治療も選択肢です。

オリゴ転移とは？

転移が少数[1～5個程度]に限定されている状態。

新しい考え方

強力な局所治療[定位照射・手術など]で転移巣を制御し、
がんの進行を遅らせる。

近年のトレンド② | 緩和照射の早期介入

「困り果ててから」ではなく「**困りそうになったら**」.

従来の考え方

あらゆる手段を尽くした後の「最後の手段」.

新しい考え方

症状の初期段階で介入し、QOLが高い状態をより長く維持する
「先手を打つ一手」.

なぜ早期介入か | 治療の実際からみえる理由

体位保持が、治療の可否を分けることもあります。



どんなに有効な治療法でも、患者さんが一定時間じっとしていただけないために、治療を断念せざるを得ないことがあります。
「まだ動けるから大丈夫」ではなく、「動けるうちにこそ、将来のつらさに備える」という視点でのご相談が、治療の可能性を大きく広げます。

近年のトレンド③ | 再照射

「一度当てた場所には、もう当てられない。」とは**限りません**。

なぜ難しいとされる？

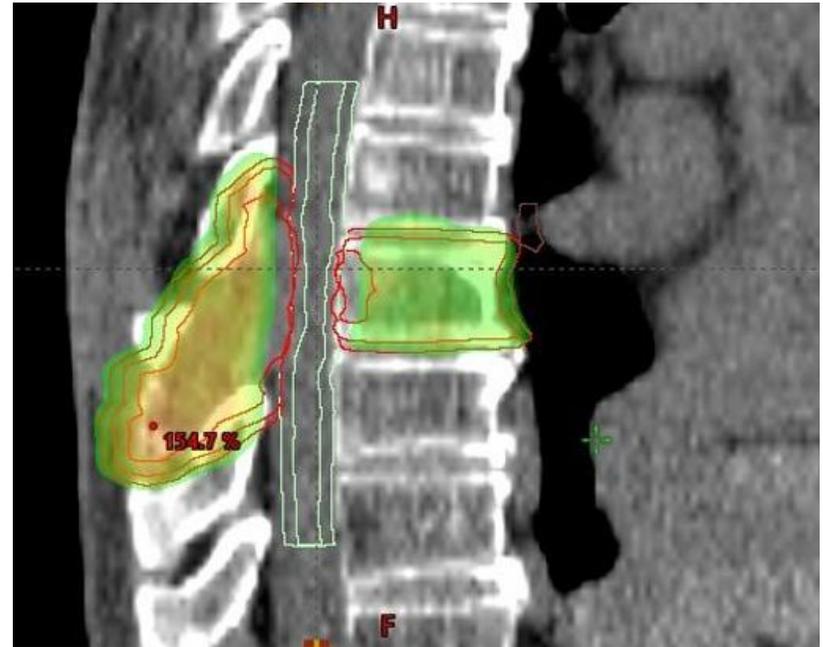
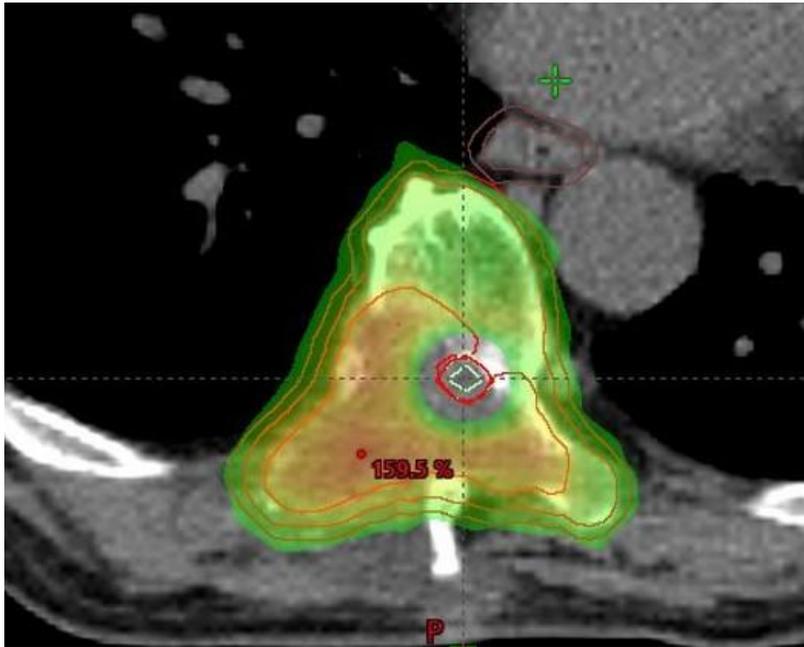
正常組織が耐えられる放射線の量[耐容線量]に上限があるため。

可能なケースが増えたワケ

高精度技術により理想的な線量分布での照射が可能になると共に、再照射の知見が徐々に蓄積されてきてきたため。

近年のトレンド③ | 再照射

再照射の可否という専門的な評価は、お任せください。



目次

- 01 | はじめに
日本の緩和照射の現状
- 02 | 緩和照射の基本
在宅医療で活用できる『ツール』のご紹介
- 03 | 緩和照射の近年のトレンド
共有したい3つのトピックス
- 04 | 連携の実際**
当院での事例のご紹介
- 05 | まとめ
患者さんのQOL向上につなげるために

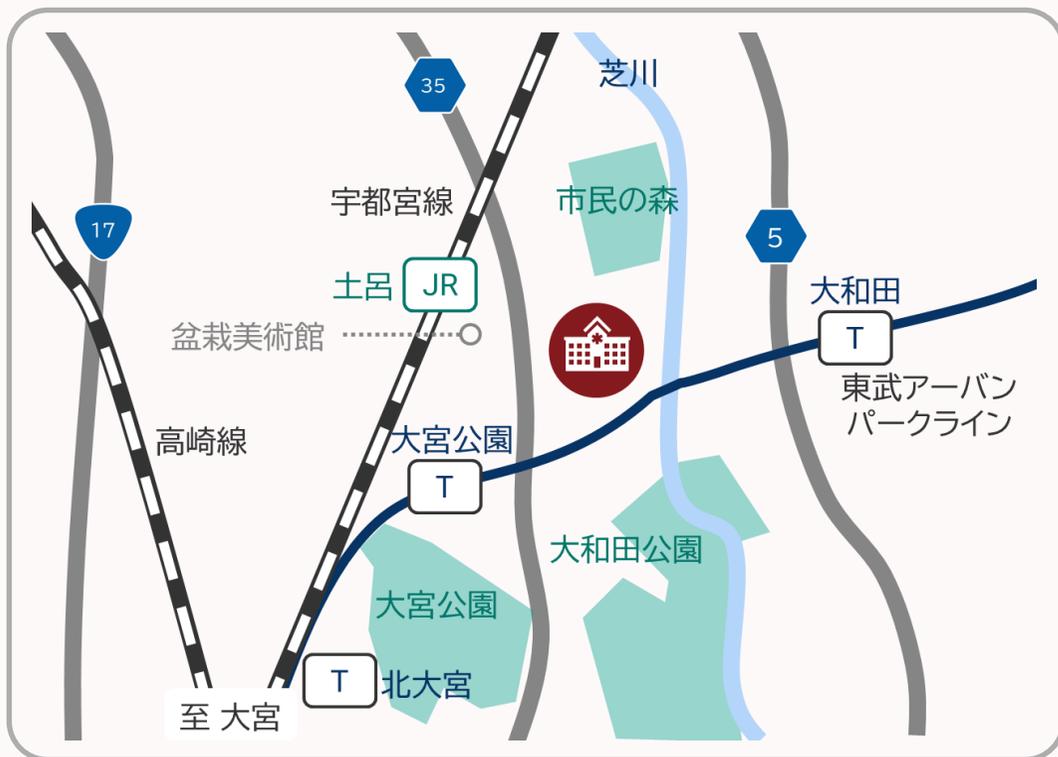
彩の国東大宮メディカルセンター

病床数

337床

放射線治療科

常勤専門医 2名体制
高精度放射線治療に対応



アクセス

- 土呂駅より徒歩11分
- 大宮公園駅より徒歩9分
- メインエントランス前に発着する乗合タクシーあり
- 岩槻ICより車 21分

一般的な緩和照射の実施フロー

タイムリーかつ迅速な診療を心がけています。



80代 女性 | 肝細胞癌 骨転移

かかりつけクリニックよりご紹介。
独居 要介護2.

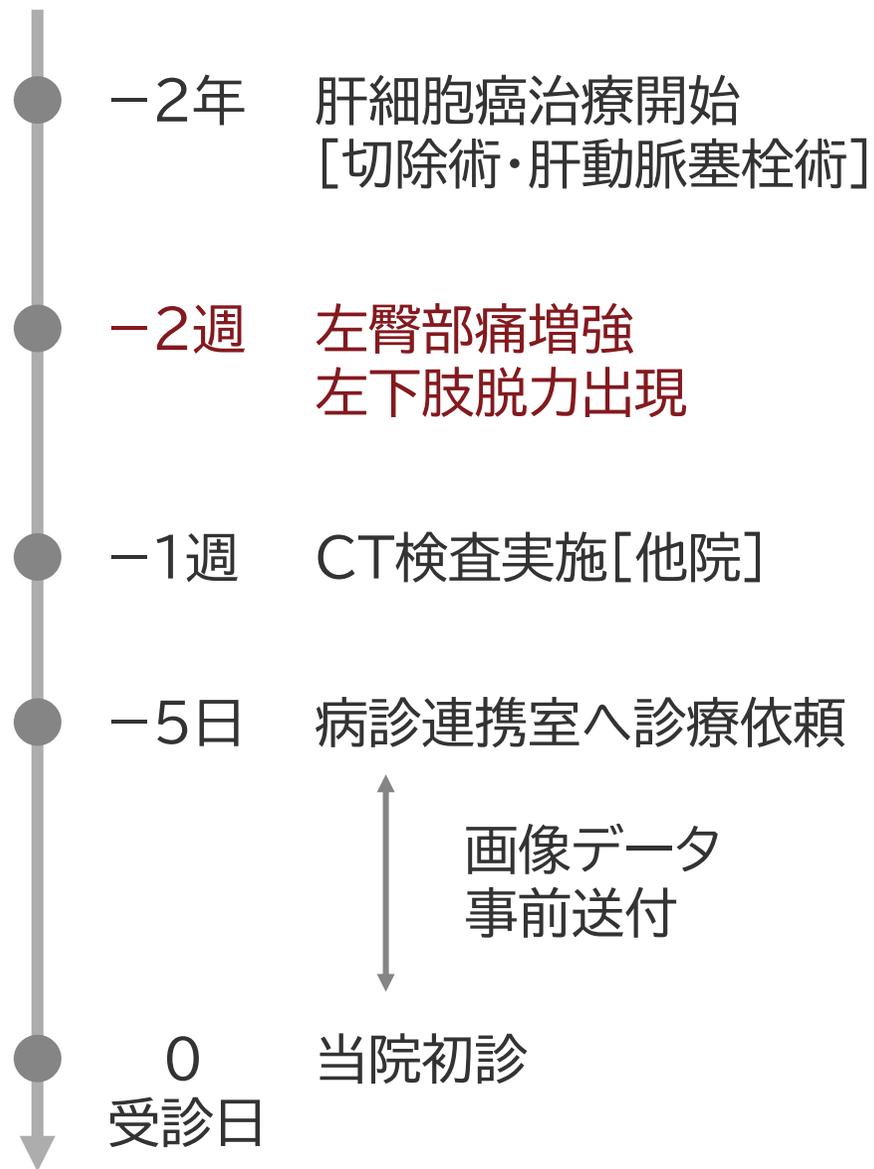
主訴

左臀部痛増強
左下肢脱力出現

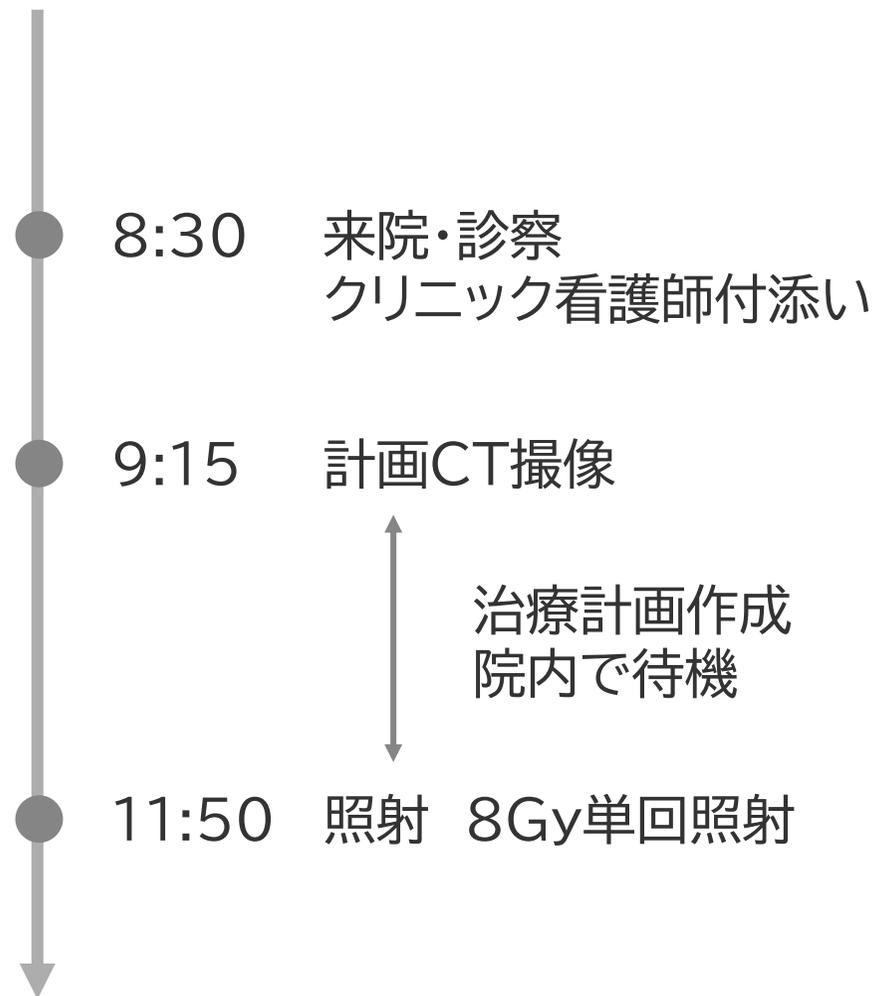
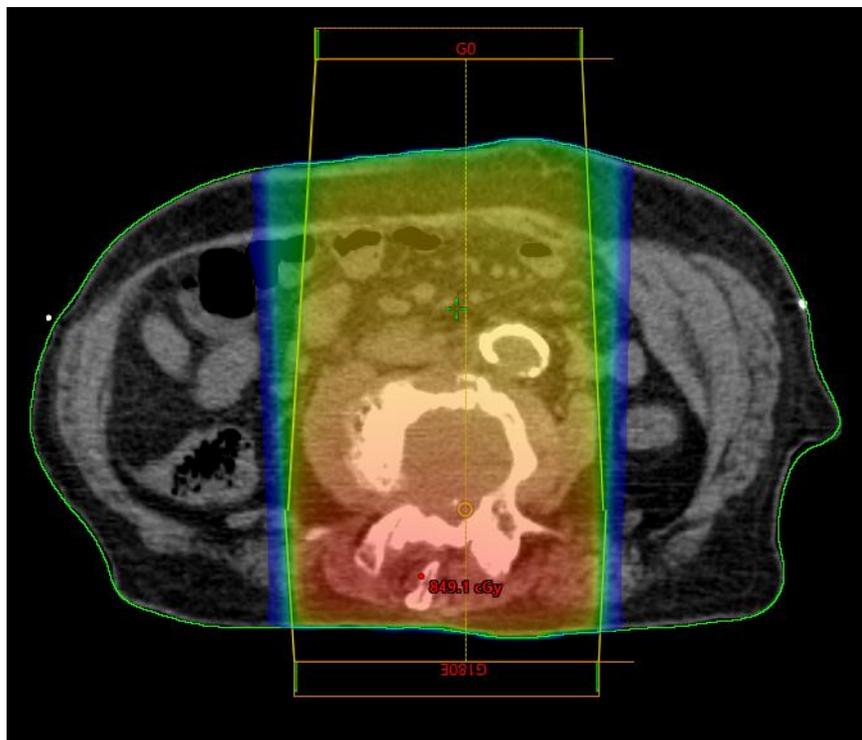
4ヶ月前



1週間前



受診日の流れ



後日、疼痛軽減の実感が得られた。

必ずしも診察日同日治療がベストとは限りませんが、負担軽減に努めています。

ご紹介いただく際に

まずは**患者さんの全体像**を教えてください。

患者さんのこと

原疾患と予測される予後
現在の症状と治療の目的
全身状態[PS]・ADL

最近の画像検査
過去の放射線治療歴の有無

治療の実現可能性について

安静な体位を保てる時間
外来への移動手段

来院を実りあるものにするための最終確認

治療の適否を分ける、大切な**確認事項**です。

照射部位付近の皮膚状況

創傷治癒の観点から、特に**褥瘡**がある場合は照射が難しいことがあります。

責任病巣の特定

責任病巣がはっきりしないまま患者さんにお越しいただくと、せっかくのご来院が無駄足になってしまう可能性があります。

目次

- 01 | はじめに
日本の緩和照射の現状
- 02 | 緩和照射の基本
在宅医療で活用できる『ツール』のご紹介
- 03 | 緩和照射の近年のトレンド
共有したい3つのトピックス
- 04 | 連携の実際
当院での事例のご紹介
- 05 | **まとめ**
患者さんのQOL向上につなげるために

本日のまとめ

緩和照射は先生方に活用いただける**強力なツール**の1つです。

01 | 日本の緩和照射には、まだ大きな**可能性**がある。

02 | 緩和照射は**短期・低侵襲**で、多くの症状に対応できる。

03 | 近年、**新たなトレンド**が見られるようになってきている。[オリゴ転移、早期介入、再照射]

04 | 「**困りそうになったら**」が、私たちにご相談いただく**絶好のタイミング**。



チーム医療の一環として
緩和照射の活用もご検討ください。



お気軽にご連絡ください

彩の国東大宮メディカルセンター



病診連携室

048-665-6115



放射線治療科 酢谷真也

shinya.sutani@shmc.jp

病診連携室



放射線治療科

